

踏み跡 <My Mountains>

昭和 38 年 7 月、奥秩父金峰山に入るべく増富鉱泉から金山平に入った時、これまでに見たことがない変わった形の岩峰に目を引きつけられた。尖峰・針峰からなる岩山は日本の山とは思えぬような印象で、強く記憶に残った。そして、登ってみたい山をリストアップすると必ずこの山が入ってくるようになった。

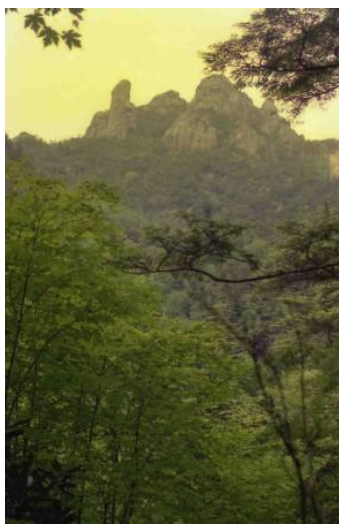
初めて見た驚きの日から 21 年が経過、ついにその機会が巡ってきた。

昭和 59 年 7 月 7 日

6 時半に自宅を出発し、前回同様藤崎のセブンイレブンで食糧調達後武石インターから京葉道路へ。箱崎で 10Km 渋滞と出足でつまずいたがその後は順調で、しかも都内は曇り空だったが笹子トンネルを抜けたら晴。須玉インターで下りて増富鉱泉・金山平と抜けて瑞牆山荘前に 11 時半に到着。



セブンイレブンで買ってきた弁当が昼食。今日の行程は「瑞牆山經由大日小屋または富士見平小屋まで」とする。食事をしながら身支度を整えて、12 時 25 分行動開始。



晴れて暑いので最初の登りで汗だく。短パンで歩き始めて正解だった。夏色の木の中に黒ずんだ瑞牆山の岩峰が鮮やかにうかがえる。どこかよその国へ来たような景色だ。(左写真)

富士見平小屋 13 時。小屋の前にザックをデポして、カメラと食糧だけを持って軽装で瑞牆山を往復することにした。天鳥川源頭まで来たら太陽が隠れ始めた。せつかく林を抜け出して明るいところへ出ようとしているのに残念。ここで突然「財布を車の中に忘れてきた」ことに気が付いた。瑞牆山往復後は富士見平小屋に泊ることはできない、車が置いてある瑞牆山荘まで戻らなければならない。

瑞牆山 14 時 10 分、海拔 2230m、あの鋭い岩峰の上に今立っているのかと思うとウキウキしてくるが、乳色の霧に包まれて何も景色は見えない。

(右写真：何も見えない瑞牆山頂上)

昼食はパンにコンビーフ、そして「とけてベチョベチョの小岩井バター」と「混ぜってドロドロになったイチゴジャムとママレードジャム」。食事の後いつものように昼寝を楽しんだが、雷雨の前兆を思わせるような冷風が吹き始めたので、あわてて飛び起きて下山開始、時刻は 14 時 30 分。

富士見平 15 時 30 分、夕暮れも近づいているので休まずに通過。

瑞牆山荘 16 時 05 分。山荘に素泊まりで泊り、明日天気良ければ金峰山をピストン、天気が悪ければ何もせず帰宅という作戦に決めた。素泊まり 3500 円を払ったついでに缶ビールを買って瑞牆山登頂を祝した。夕食に五目飯の缶詰を試してみたが、とても美味しいとは思えなかった。おかずはコンビーフと味噌汁、食後の憩いに紅茶。



踏 み 跡 <My Mountains>

昭和59年7月8日

残念ながら雨。それでも歩かないと落ち着かない。7時50分に出発して金峰山を目指しはしたが・・・
雨で上まで行くのは無意味と考え、大日岩で折り返す。

瑞牆山荘に10時55分帰着。これで退却することにして荷物を片づけ、11時20分出発。

雨で立ち寄るところもあまりないので、どこにも寄り道せず16時に自宅に着いた。

以上